

(配布先)
支店長・副支店長
施工担当部署長、建設所長
副部長・副所長・統括工事長
安全長・安全主任
工事長・工事主任

事務連絡 (安-2022-37)
令和4年11月25日

関西支店
安全環境部長

インフラ損傷事故防止の再徹底について (要請)

先日、既設大型物流施設の浸水対策工事作業所で、特高変電設備の配線ピット躯体側面に増設する止水壁躯体用の後施工鉄筋アンカー (D22) を打設するため、ハンマードリルで躯体を削孔した際に特高制御ケーブルを損傷し、約5時間施設全館が停電となるインフラ損傷事故が発生しました。幸い人的な被害はありませんでしたが、得意先及びテナント関係者に多大なご迷惑をかける結果となりました。(別紙1参照)

当該ケーブルは配線ピット内に露出し目視確認できる状態であったにもかかわらず、当社による墨出し業者・アンカー業者への周知が徹底されず、インフラ損傷事故防止対策のルールが形骸化していたと言わざるを得ません。

関西支店でも今月11日から17日までインフラ損傷事故防止強調週刊で各作業所のインフラ状況を再確認していただきましたが、今一度この事象に対しても認識をもって現場管理をお願いします

つきましては、インフラ損傷事故防止のため、啓発ポスター(別紙2)に定める下記の実施事項を再徹底するよう要請します。

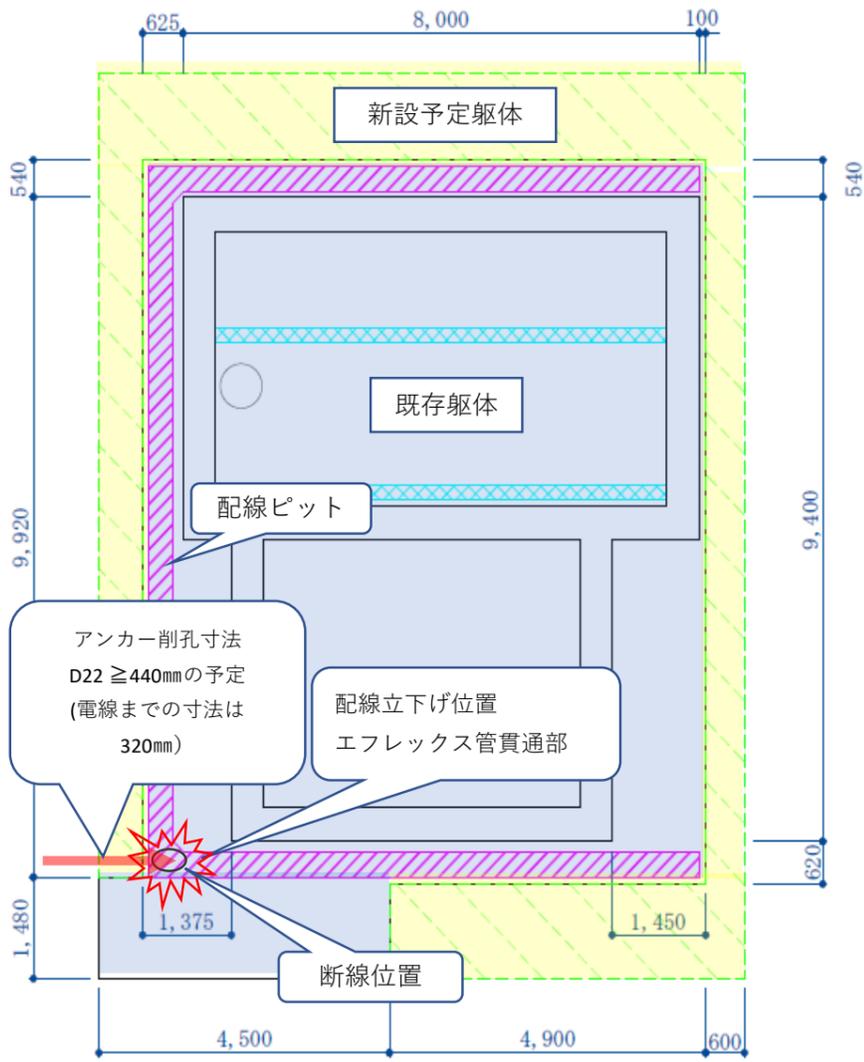
記

1. **協議** : 計画前に、インフラ企業者と不明点・連絡体制などを確認。
2. **調査・立会・試掘** : 調査には、インフラ企業者の立会を要請、試掘は手掘りで!!
3. **見える化** : 調査・試掘結果を色分けするなどして、わかりやすく表示・周知し維持管理する。
4. **手順の周知・厳守** : 予定外の事態ではいったん作業中止、安全確認できるまで再開しない。

以上

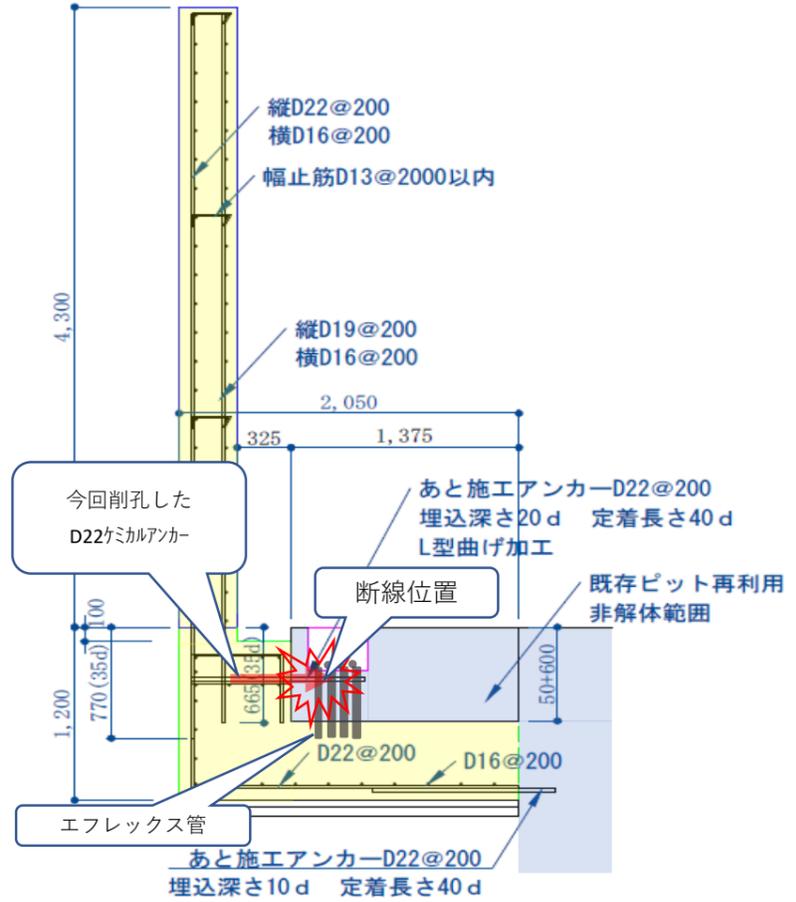
※この事務連絡は、令和4年11月14日に安全環境本部発行示達本(安環安)22-24に基づき作成しました。

事故発生状況図



【事故発生状況伏せ図】

配線ピットの蓋をはずし、配線は現認できる(露出)状態で作業を行っていたが、アンカー打設に際しての墨出し時に、配線立下げ位置と削孔位置・深さを確認することなく作業を開始させた。
 ※配線立下げ位置も、上から確認できる状態であった。



【事故発生状況断面図】



【事故発生状況写真①】
(アンカー削孔位置)



【事故発生状況写真②】
(アンカー削孔方向)



【事故発生状況写真③】
(断線位置)



【事故発生状況写真④】
(仮復旧状況)

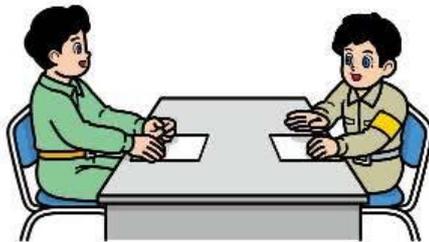
インフラ損傷事故は生活上の支障や重大な経済的損失をもたらす公衆災害です



インフラ損傷事故防止

協議

計画前に、インフラ企業者と不明点・連絡体制などを確認。



調査・立会・試掘

調査には、インフラ企業者の立会を要請。試掘は手掘りで!!



見える化

調査・試掘結果を色分けするなどしてわかりやすく表示・周知し、維持管理する。



手順の周知・厳守

予定外の事態ではいったん作業中止。安全確認できるまで再開しない。

